



子どもたちが落ち着いて2学期を過ごすためには、**安心・安全**な環境づくりについて、再度確認することが大切です。また、2学期の始まりは学級をリスタートするチャンスでもあります。今回は、特に夏休み明けに大切にしていきたいポイントをお伝えします。

夏休み明けに大切にしたいポイント



ポイントその①

学習規律やきまりを再確認

1学期に決めた学級目標やきまり等を改めて**子どもと一緒に確認する**

【1学期に決めたきまり(例)】

- ☐ 時間を守る
- ☐ 相手のことを考えた話し方や聴き方をする



みんなが気持ちよく生活するために、1学期に決めたきまりがあったな。2学期も続けていこう。



「なぜ時間を守らないといけないのか」等、**きまりの意味を夏休み明けに再度確認すること**が重要です。**きまりを守ることは、みんなにとって良いことだと子どもたちに意識させることも**安心・安全な雰囲気をつくるための大切なポイントです。



ポイントその②

子ども一人一人をしっかりと観察

朝の時間、授業中、休憩中等の様子を見る → 子どもへの声かけ

【子どもたちの様子(例)】

朝の時間

- ☐ 名前を呼ばれても返事をしない
- ☐ 普段よりよく話し、落ち着かない
- ☐ 同じ服を着ている日が続いている

朝の健康観察や、出席確認、朝読書の時間等も、子どもたちの変化に気付くチャンスです。

授業中

- ☐ 朝からあくびがとまらない
- ☐ 学習用具がそろわない
- ☐ トイレや保健室へ行く回数が増える

学習等への意欲の変化から生活リズムの乱れ等を見取することもできる場面です。学習用具など持ち物にも目を向けてみましょう。

休憩中

- ☐ 一人で過ごす場面が多い
- ☐ 内緒話をする場面をよく見かける

授業中には見えない子ども同士の関係に気付くことができます。意図的に子どもたちと話す機会をつくったり、教室だけでなく様々な場所で様子を見守ったりすることも効果的です。



授業中に伏せているからといって、**一方的に叱るのではなく、授業後等に「どうしたの?」「何かあった?」**とたずね、その**子どもが抱えている背景や困り感に寄り添う**ことが大切です。

夏休み明けは、特に様々な思いを抱えて登校している子どももいます。行動の様子や人間関係の変化の背景等を意識しながら、日々の生活から子どもたちの姿を見取りましょう。気になる子どもたちの姿を見逃さず、直接子どもに話しかけたり、学年主任、学年団、養護教諭等、身近な先生方に相談したりしましょう。